



2023. 8. 7発行 ニュースレター第312号

〒262-0019 千葉県花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL:090-7941-7655 FAX:043-483-0027 代表：小西 由希子

E-mail:yatsudasukisuki@gmail.com, Home Page:<http://www.ceic.info/>

写真等無断転載禁止

下和田谷津田（猿橋地区）の開発計画について④ ～千葉県環境影響評価審査会～

NPO法人 ちば環境情報センター 副代表 小田 信治

令和5年度第2回千葉県環境影響評価審査会が開催され、傍聴しましたので報告します。

なお、第1回審査会は6月1日に緑区役所 5階会議室で開催されました。

指摘がありましたが、事業者からボーリングによる地下水調査を実施することが示されました。

【対象事業の変更】

方法書には無かった中野ICと接続する幹線道路が新たに配置されて、対象事業の変更が事業者から示されました(図-1)。鹿島川と並行して、千葉東金道路の手前で県道131号と接続しています。これにより、面積は約2ha増えて76.3haになり、調査範囲も拡大しています。

幹線道路の箇所は農振農用地に指定されており、土地の確保は未定のようなのです。

【千葉県環境影響評価審査会の概要】

日時：2023年7月20日(木) 13:00～14:50

場所：千葉県総合保健医療センター5階会議室

出席者：審査委員12名(委員数18名)

千葉県環境保全課(事務局)

事業者関係(美樹観光(株)浅川社長他)

傍聴席：当会より 網代、高橋、小田

その他 女性1名

議事：

- ・第1回審査会委員意見に対する事業者見解
- ・委員から追加意見に対する事業者見解
- ・事業者による方法書説明会での意見に対する質疑応答の概要
- ・方法書に対する住民意見の概要
- ・対象事業の修正内容

【委員からの主な質疑・意見等】

審査委員は環境に係わる有識者により構成されており、大学等の研究機関から千葉市が委嘱しています。各委員の専門に係わる内容について質疑・意見等がされますが、本件では自然環境や生物多様性に係る質疑・意見が多く出されました。

特に印象的だったのは、水質を専門にされている千葉大学教授から、「住民意見をみると、開発計画地は生物多様性上重要な里山であり、保全すべきとかなり専門的な市民が述べている。生物多様性は世界的な重要課題であるが、日本は温暖化対策でも石炭火力を止めないし、里山でも開発をやっている。本件はコストの問題ではなく、倫理の問題である。千葉県、千葉市が土地を買い上げることも検討すべきではないか。」

審査会の議事録は、千葉市HPで公開されますので、詳細はそこをご覧ください。

前回の審査会では、谷津田の湧水調査が必要との

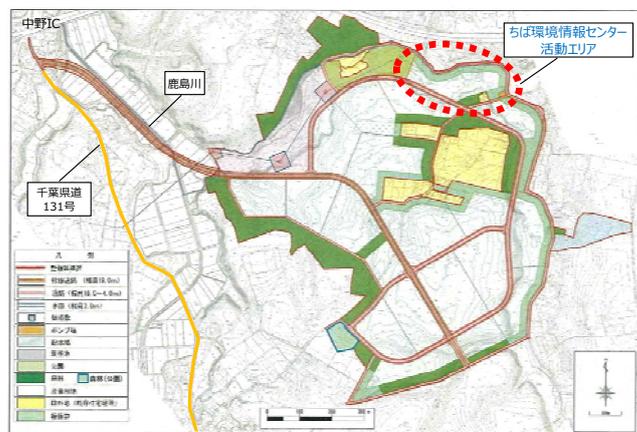


図-1 土地利用の変更

【次回審査会】

第3回審査会は、8月25日(金)に開催され、千葉市長意見の基になる答申案が審議されます。これにより、開発計画と環境アセスの方向性が決まると言っても過言ではありません。開発による土地改変を減じて、谷津田を保全すべきとの市長意見を期待したいと思います。

【審査会の情報について】

審査会で配布された資料や議事録は千葉市HPで公開されています。ぜひ、ご覧ください。



下大和田「キノコの観察と分類」夏に参加して

八街市 内野 雅子

7月2日、いつも生き物の観察会をしている下大和田の谷津田周辺で、県立中央博物館の吹春俊光先生を講師にお迎えして、私にとっては初めてのキノコの観察会に参加させていただきました。

午前中は森をまわり、参加者が見つけたキノコをまずはその場で、環境や特徴などから名前を教えてくださいながら紙袋に採集していきました。



講師の吹春さん(右奥)の解説でクヌギに生えたキノコを観察

これこそキノコという感じの代表的なベニタケの仲間が始まり、クヌギレストランで変わりもののキノオオフクロタケを見つれたり、珍品のアオミドリタマゴテングタケに出会ったり、冬虫夏草のクモタケを見つけた人もいて、皆足もとに目をこらしつつの興味深い観察会になりました。

午後はみんなで集めたキノコを、先生が用意された「顕微鏡をつかわない、やわらかいきのこのわけかた」の資料に沿って順に解説していただきました。

キノコは名前のついていないものの方が多いとのこと。それでもたくさん名前を知ることができました。

ベニタケ属、チチタケ属、ウスヒラタケ、ダイダ

イガサ、ハナオチバタケ、アシグロホウライタケ、テングタケダマシ、アオミドリタマゴテングタケ、キノオオフクロタケ、アセタケ属、チャツムタケ、スミゾメヤマイグチ、アラゲキクラゲ、シロキクラゲ、ヒメムキタケ属、ウロコタケの仲間、スジウチワタケモドキ？、クモタケ、チリメンタケ、ヒイロタケ、ツヤウチワタケ、ヒナアンズタケ、クロコブタケなど。

植物の根のまわりに菌根を作る外生菌と内側に入り込む内生菌のことや、キノコの菌と植物の



珍しい キノオオフクロタケ

共生関係が思っていたより菌に頼るもので、特に野生のランは栄養やミネラルを菌にかなり依存しているから移植が難しいこと。また、木材腐朽菌のシイタケはリグニンを先に分解するからセルロースが残って木材が白く枯れていくことやスーパーで買える食べられるキノコに関わる様々な話、ナラ枯れとともにカエントケが広がること、ワライタケの話などなど、胞子紋やつばやつぼの有る無しなどのキノコの見分け方の情報とともにいろいろなこぼれ話を聞くことができたいへん面白く、楽しい学びの時間でした。

生物多様性の一助ともなっている菌の一時期の姿にすぎないキノコですが、この森の環境の良さを表してくれているようで、これからも様々なキノコに出会えそうです。10月1日の秋のキノコ観察会を今から楽しみにしています。

お米にまつわるミャンマーの話 第9回

～ミャンマー式お誕生日の祝い方～ 前編

千葉市若葉区 岩沢 久美子

先日、押し入れの荷物を整理していたら、娘がミャンマーの幼稚園で描いた2枚の絵が出てきました。2枚とも雨の日の高層ビル（おそらく当時住んでいたマンション）の絵で先生が書いてくれた手書きのタイトルで「My house in the rainy season（雨期の私の家）」とありました。ミャンマーでは5月から9月頃が雨期となり、時には大雨が何日も続くこともあります。2枚も連続で雨の絵を描くとは、娘の眼にもミャンマーの雨期は非常に印象深かつ

たようです。そんな娘は8月生まれで、誕生日は雨期の真っただ中です。今回は、娘の誕生日の思い出をお話したいと思います。

ミャンマーでは何かお祝い事があると、祝い事があつた本人が皆のために祝いの席を設けるのが普通です。職場ではミャンマー人の同僚が自分の誕生日に事務所員全員分の朝ご飯やランチを振舞うことがよくありました。日本では自分で誕生日のお祝いをするというのは少し不思議な感じがするかも

しませんが、少なくとも私が過去に住んだミャンマーや中東地域では、祝い事の当事者本人が職場等でお祝いを振舞うのが一般的で、むしろ世界的にはこのスタイルが主流なのかもしれません。とりわけ、人との関係を大切にするミャンマーの文化を考えると、祝い事の際、日ごろお世話になっている方々に料理等を振舞って、感謝の気持ちと「幸せのお裾分け」をするという感覚はとてよく理解できます。



孤児院を運営する牧師夫婦。前にあるのは雨傘やノートなどの文房具の贈り物

子供の場合も同様に、誕生日には先生やクラスメートにケーキやお菓子を振舞います。娘の場合、まず学校に 50 センチ四方に及ぶ巨大なケーキを持っていき、クラスのお友達や先生とお祝いしていました。家では使用人や学校外の仲の良いお友達を呼んでレストランでパーティーを行い、さらにいつも優

しくしてくれているマンションの受付やプレイルームのお姉さん等のためにケーキを振舞いと、誕生日の度に何度もお祝いをしていました。お祝いをする度に、使用人やお友達からもたくさんのプレゼントをもらいます。日ごろお世話になっている方々にお祝いを振舞う機会があるのはとても良いことですが、それにしてもあまりに派手な祝い方をする中で、このような大量消費がこの国で正しい誕生日の祝い方なのか、誕生日のたびにもやもやと疑問を感じていました。また、いただくプレゼントの多くがプラスチック製のおもちゃなのも、環境に悪くて嫌だなとも感じていました。

そのような誕生日を 2 年ほど経験した 3 年目の娘の誕生日の前、その年の誕生日の準備についてナニーのパオパオと話しあっていた際、今まで感じていた疑問ともっと意味ある祝い方がないかを相談してみました。すると「パーティーの代わりに寄付をする」というアイデアを提案されました。ミャンマー人は世界で最も良く寄付をする国民という調査結果があるほど、ミャンマーでは寄付文化の根付いています。そのため、お祝いの際に寺院や福祉施設等へ寄付をすることがよくあるそうです。

社会福祉が未発達なミャンマーでは多くの私営の孤児院や老人ホーム等の福祉施設があります。それらの施設の多くはほぼ寄付だけで運営が賄われています。多くは仏教寺院や教会など宗教施設に併設されており、この国ではこうした宗教団体が社会保障を担っているのです。
(つづく)

副代表に就任して

東京都江東区 小田 信治

7 月開催の運営委員会において、副代表のご指名をいただき、就任いたしました。

ちば環境情報センターには 2002 年の秋に入会しましたので、21 年になります。下大和田の谷津田では、娘と息子も稲作や自然体験ではたいへんお世話になりました。仕事の関係で、環境アセスメントに係わってきましたので、その経験を活かして、千葉県アセス条例で手続き中の「千葉市緑区下大和田町開発計画」に対する問題解決と谷津田の保全に向けて、小西代表を補佐していく所存です。よろしく願いいたします。



新浜の話 66 ～ 再整備事業第一期 ～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

1995 年 12 月 1 日からスタートした行徳内陸性湿地再整備事業。最初に行われたのは、私たちがあらかじめつけておいた輪郭線を目途に、大型ブルドーザーを用いて、表面の植生をざっくりとはがすことでした。おおむね地表の位置にブレードを合わせ、豪快に押し進みます。ほんの数日で、1 万平方メートル近く、池の形にはぎとられた裸の地面ができました。周囲にははがされた植物と土砂の山ができ

ます。池の造成はこれまでと同じで、予定の深さまでブルドーザーで土を押し掘り下げ、大型ユンボ（バックホウ）とブルドーザーで周辺の土手を仕上げます。10 日ほどで池の形ができました。犠牲になった生きものも多々いたことでしょう。裸地になった現場にはカラスが集まって、お葬式をしてくれました。

スロマン^③

作: 7月ま
おまけ



現在の資本主義の矛盾は根が深い...

池（現在の百合池と三島池）の概略造成に続き、観察舎前の流堤上に砂と砂利を敷く作業が行われました。行徳と南行徳の漁港から貝殻を集めてきて、仕上げにまく作業も1月なかばにはだいたい終わり、海に岬を突き出す工事の基礎に時間がかかっていました。電柱ほどの丸太が楽々と刺さって埋まってしまうほどの軟弱地盤。工専用通路を確保するために、ダンプに何十台分ものコンクリートガラなどが運ばれました。1m四方くらいの大きなものもあり、鉄筋が入ったままのガラを基礎に敷き詰めてゆきます。下北岬の形を作るために、こうしたガラが基礎に積まれましたが、積むそばから沈んでしまうことも多かったようです。今も使われている管理通路もコンクリートガラが基礎。ちなみに、観察舎裏手の福栄4丁目のわが家のまん前で、つい2、3年前に持主の方が引っ越され、住宅が解体されて更地になる工事がありました。この時にも同様のコンクリートガラが土中から出てきていました。ここは1970年ころまでは丸浜養魚場という広い養魚池でしたから、埋立や宅地造成に建設残土が使われていたわけです。

もともとあった岬の形をもとに、だいたいの基礎ができたところで、10cmくらいの大きな石が敷かれ、その上に砕石（いわゆる割栗）がかぶせられて、下北岬ができました。同じ方法で隣の上北岬も造成されましたが、上北岬は規模は小さいながら海に突き出す埋め立て工事であった上、水深が急に深くなる場所だったので、工事はいつそうたいへんだったようです。

二面の新しい池は、雨水や浸出水で薄く水がついていました。ポンプや電気工事は翌年の二期工事で行われるため、揚水は当分先になります。後に三島池と呼ばれる池の中央に小さな島を三つ作っておいてもらいました。この島で、セイタカシギが巣を作り、ヒナをかえしてくれました。数年ぶりの快挙です。百合が浜寄りのもう一つの池は、チガヤが茂った部分を大きく掘り残して島にしてもらいました。後に故森田昭次さんが橋をかけてくださり、秘境探検をしたものです。

導流堤に敷いた砂と貝殻は、いかにもコアジサシが好みそうな見た目でした。しかし、もともとコアジサシが降りたことがない場所。5mという幅が狭いのか、建物に近いからか。粘土でいくつもデコイを作って置いたのですが、カラスが喜んで持って行ってしまいました。マイクでコアジサシの声を流してみたところ、一度だけ、数羽が舞い下りました。それでおしまい。

2カ所の岬はというと、下北岬の付け根でコアジサシが営巣し、親鳥の警戒のようすからみて、ヒナをかえすところまでは行ったようです。20年ぶりの快挙！しかしヒナの姿が確認できないまま、ふ化後2、3日でいなくなってしまうました。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター-2023年 9月号（第313号）の発送を 9月 8日（金）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にて おこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所 〒 _____

ふりがな 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: 全国的に猛暑が続いています。千葉県でも7月19日、茂原市と市原市牛久で37.2℃を観測し、全国の観測地点で最も高い気温となりました。高温と小雨による生きものたちへの影響が懸念されます。そんな中でも下大和田の谷津田は豊かな湧水が流れ、生命を育んでいます。この生物多様性豊かな宝の地を、こどもたちに残していきたいと願わずにはられません。mud-skipper

<小山町での活動>

☆第 217 回 小山町 YPP「畦と水路の整備」他 報告：赤シャツ親父

今期は7月1日より小山町方々の田畑にイノシシが出現し被害が広がりました。YPP の田んぼの畦も広範に壊されたため、当日は畦の修復とともにイノシシの侵入対策に充てました。鴨対策のためキラキラテープを張っていた田んぼの被害が軽微であったため、進入路と思われる場所にキラキラテープで結界を張りました。子どもたちの自然観察コースの畦と水路が整い、かつてあった小池も復活。ビオトープの進化が楽しみです。(参加 大人4名)

☆7月期の活動「山の整備とイノシシ対策他」 報告：赤シャツ親父

27日に有志による山の整備を行ないました。枯れ竹、アオキ等の低木の伐採、おだに用いる成熟した竹の切り出しの後、8月に予定している小学校田んぼの案山子づくり用部材の整備・確認等を行いました。また、7月初旬より目立ってきているイノシシ被害は、生物の存在密度の高い特定の畦を好んで狙って来る傾向が見受けられ、迅速な修復作業とともに、キラキラ結界の追加、網を張るなど進入路をつぶす対策も拡張。知恵比べが続いています。

☆令和5年度期 小学校田んぼ草取り作業 報告：たんぼぼ

大椎小は6月29日、あすみ小は7月5日に各小学校田んぼの草取り作業が行われました。今期の梅雨は雨が少なく、6月下旬からは連日真夏日であったため、全体にかかる時間を短縮する措置をとりました。子どもたちは見違える程育った稲に驚きながらも、暑さに負けず明るく元気に、田んぼボランティアの保護者の方々も子どもたちに負けずにパワフルに、みんなで作業に臨み、たちまち田んぼがきれいになりました。豊作になってほしいと祈るばかりです。

【谷津田・季節のたより】 2023年 7月

<下大和田町>

7/16 サンコウチョウのさえずりを聞く。ヒクイナの声が谷津田から休みなく聞こえる。

<小 山 町>

7/03 畑にキジが卵 9 個温める姿を発見(たんぼぼ), 7/05 ヤマユリ開花(高山), 7/22~ タمامシ頻出(たんぼぼ), 7/28 コジュケイ親子、7/29 キジ親子、現れる(たんぼぼ)

・セミの初鳴き 報告：たんぼぼ, 赤シャツ親父, 高山

ニイニイゼミ(7/5), タ方ヒグラシ(7/8), クマゼミ(7/16), 朝ヒグラシ(7/21), アブラゼミ(7/22), ミンミンゼミ(7/23), ツクツクボウシ(7/27)

・稲の出穂開花状況 報告：たんぼぼ

コシヒカリ・大椎小田んぼ(7/12)を先駆けて14日にかけて各田一斉に出穂開花、黒米・日出穂開花(7/13)

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・森と水辺の手入れ

※8月はお休みです

・第 294 回 下大和田 YPP 「コシヒカリの稲刈り」

日 時：2023年 9月 2日(土) 9時45分～14時 ※雨天などの場合は翌3日(日)に実施

持ち物：長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：ちば環境情報センター会員以外300円、会員は無料(小学生以上)

・第 284 回 観察会とゴミ拾い 「盛夏の谷津散策」

日 時：2023年 9月 3日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内 容：秋の花が咲き始め、赤とんぼも色付く頃です。トンボの調査をしながら谷津を巡ります

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

午後活動する方は弁当、敷物 参加費：100円

・第 295 回 下大和田 YPP 「コシヒカリの脱穀」

日 時：2023年 9月16日(土) 9時45分～15時 ※雨天などの場合は翌17日(日)に実施

持ち物：長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：ちば環境情報センター会員以外300円(小学生以上)、会員は無料(小学生以上)

<小山町谷津田>

▼8月期 小山町 YPP「お盆休み」

8月期の小山町 YPP の活動はお休みとします。なお、個人的な作業につましても、小山町の習わしに従いお盆期間中(8/13~16日)は休止とします。

※ 小山町の谷津田にご興味のある方は、赤シャツ親父 (e-mail; tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい。

